

柏崎市第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）**I はじめに****1 地方創生の取組と現状**

全国的な人口減少・少子高齢化は依然として深刻な状況であり、それに伴い地方における生産年齢人口は著しく減少しています。一方で、国内の就業者数は増加しており、全体的な人口減少を女性や高齢者の社会進出が補っている状態となっています。また、東京圏への転出超過は依然として一極集中の傾向が続いており、全人口の約 3 割が東京圏に集中しています。

本市においても、まちの将来を担う若い世代、特に女性の市外への流出が顕著であり、そのことが人口の社会減にもつながっています。

本市の活力や都市機能等を維持し続けるために、平成 27 年度（2015 年度）に策定した「柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）により、これまで行ってきた取組を振り返るとともに、働く場の確保や魅力あるまちづくり、暮らしやすい環境づくりと地域を担う人づくりに引き続き取り組むことが必要です。

2 計画策定の方針

地方創生の実現は、地方と国が一体となって切れ目なく継続して取り組む必要があります。このため、国の第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び新潟県の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、本市の実情に即した地域性のある計画とします。

また、柏崎市第五次総合計画の基本構想を踏まえた計画とし、「力強く 心地よいまち」の実現を目指します。

3 計画の構成**(1) 柏崎市人口ビジョン**

- ・本市の人口減少幅をできる限り抑え、将来にわたって、持続可能な柏崎市を構築することを目指します。
- ・計画期間 令和 4 2 年（2060 年）まで

(2) 柏崎市第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略

- ・本市における人口の現状と将来の展望を見通す人口ビジョンを踏まえて、今後 5 か年で重点的に取り組む目標や施策の基本的方向、主要プロジェクトを定め、具体的な施策を着実に進めます。
- ・計画期間 令和 2 年度（2020 年度）～令和 6 年度（2024 年度）の 5 年間

Ⅱ 柏崎市人口ビジョン

1 人口動向

- ・本市の人口は、昭和30年（1955年）から昭和50年（1975年）にかけて減少し、昭和50年（1975年）から平成7年（1995年）までは増加へと転じ、平成7年（1995年）をピークに減少し続けています。
- ・平成17年（2005年）の市町合併後の人口推移では、平成17年（2005年）から平成22年（2010年）までは3,107人（3.3%）、平成22（2010年）から平成27年（2015年）までは4,618人（5.0%）の減少となっており、直近5年の減少幅の方が大きくなっています。
- ・柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年（2015年）10月策定）においては、推計人口を令和2年（2020年）に82,434人としていましたが、実際にはそれを上回って人口が減少しています。
- ・自然増減では、出生者数は一貫して減少し続ける一方、死亡者数は横ばい傾向にあり、平成26年（2014年）から平成30年（2018年）までの平均値では、出生者数は死亡者数の5割に満たない状況にあります。人口減少の最も大きな要因は、出生者数が少ないことにあります。
- ・社会増減では、転入転出ともに漸増傾向にあり、転出数が高い傾向にあります。また、就業や転勤などの職業を理由とする転出が最も多く、年代別では20代の転出割合が最も高くなっています。

2 将来人口推計

- ・現状のまま推移した場合、**令和42年（2060年）には、現人口8.3万人から3.9万人に減少すると推計されます。**
- ・現状の傾向を前提とした将来人口を推計するとともに、その過程において各種施策を積極的に展開した場合の将来人口を推計します。

3 人口の将来展望

- ・本市の将来を担う若い世代が柏崎に愛着や誇りを持って暮らし続けるための有用な施策を積極的に展開します。
- ・若い世代と女性の転出を抑制することやU・Iターンによる転入、また、子育て環境の充実による出生率の向上を図ります。
- ・これらの施策を総合的かつ戦略的に進めることにより、**将来展望として、令和42年（2060年）に約〇万人～〇万人と推計します。**

Ⅲ 柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1 基本的な考え方

第2期総合戦略を推進するに当たっては、次の基本的な視点を踏まえて取組を進めます。

- ・歴史や伝統など、これまで積み重ねてきた本市の資源を大切にしながら、新しい時代への変革を意識し、豊かで質の高いまち、すなわち「洗練された田舎」としての魅力を高めます。
- ・市民、関係機関・団体等との連携・協働の促進を図ります。
- ・柏崎市第五次総合計画と一体となった進行管理と施策の推進を図ります。

2 最重点目標

本市の将来を担う若い世代や転出傾向が強い女性にとって、暮らし続けたいと思える魅力的な柏崎市を実現するため、次の最重点目標を定めます。

「若者と女性が誇りと愛着を持って暮らす」

3 基本目標

本市の総合戦略を推進するに当たって、4つの基本目標を定めます。

(1) 地域産業の振興を図り雇用の場をつくる

地域産業の活性化や新しい産業の創出、起業及び事業承継の支援に積極的に取り組むことにより、若者と女性が将来に夢を持ち、安心して暮らし続けることができるよう、雇用の場の確保に努めます。

(2) 定住を促す魅力あるまちをつくる

若者の転出抑制と人口の定着につなげるために、転出者の回帰や都市部の移住志向を持つ人をひきつけ、定住人口減少の抑制と関係人口の創出・拡大に取り組むとともに、豊かな自然環境と様々な地域資源の持つ魅力を、市内外へ効果的に発信し、市民の柏崎への誇りや愛着の醸成を図ります。

(3) 子どもを産み育てやすいまちをつくる

出産・子育てを望む人が安心して子どもを産み、働きながら子育てができる環境づくりや、地域や企業を含む市全体で子育て世帯を支える仕組みづくりを進めます。

(4) 地域の活力を担う人材をつくる

幼少期から柏崎の魅力に触れ、愛着を持てる教育を進めるとともに、ものづくり技術の継承や高度化を目指して、大学や関係機関と連携しながら、将来の柏崎を担う人材の育成に取り組めます。

4 基本的方向

4つの基本目標ごとに、最重点目標達成の指標となる主要プロジェクトを設定します。さらに、優先的かつ重点的に進める施策を重点プロジェクトとして位置付け、各種施策を積極的に進めます。

(1) 地域産業の振興を図り雇用の場をつくる

ア 地域産業を活性化する

●地域産業の稼ぐ力の拡大

ものづくり産業や情報産業の生産性向上と競争力強化を促進するため、IoTやAIの導入促進や知的財産権の取得などに対して支援することにより、稼ぐ力の拡大を図ります。

また、米山プリンセスの生産やヒゲソリダイの養殖など、ブランド力の向上による稼げる農林水産業の取組を強化します。

さらに、市民や観光関係事業者との協力により柏崎市観光ビジョンを策定し、ビジョンの推進により交流人口の拡大を図り、観光産業の振興にも積極的に取り組みます。

●新たな産業の創出

柏崎フロンティアパークなどへの企業誘致に積極的に取り組みます。

また、柏崎市地域エネルギービジョンに基づき、地域エネルギー会社の設立など柏崎市次世代エネルギー研究プロジェクトの実現に向けて、取組を強化します。

さらに、廃炉産業の創出に向けた調査・研究を進めます。

イ 雇用対策を強化する

●若者と女性の雇用促進

若者の地元企業への就労を促進するとともに、人材確保を目指す事業者や女性の活躍を促進する事業者の取組を支援することにより、若者と女性の地元定着を図ります。

また、若者の地元回帰を促進し、就労に関する補助金や定住促進に向けた相談窓口として、U・Iターン情報ステーションの取組を推進します。

●創業・起業の推進

柏崎市創業支援事業計画に基づき、「柏崎・社長のたまご塾」の取組や創業・起業及び事業承継に対する支援など関係機関との協働により、多様な創業者や起業者の輩出を促進し、「創業しやすいまち柏崎」の実現を目指します。

(2) 定住を促す魅力あるまちをつくる

ア 若者の定住を促進する

●U・Iターン施策の推進

都内における相談窓口の開設などによりU・Iターンを促進するとともに、U・Iターンした若者の暮らしを支援するなど、柏崎市移住・定住推進行動計画を着実に推進します。

また、地域おこし協力隊や地域におけるインターン事業など、都市部の人材を受け入れる地域の取組を支援します。

●新卒者の定着に対する支援

新卒者の地元大学への進学や地元企業への就職支援を推進します。加えて、産学官が一体となり、インターンシップや実務型の職場研修事業など、本市の産業や企業を理解する取組により、若者の地元定着につなげます。

イ 柏崎らしさを創出する

●シティセールスの推進

柏崎ファンクラブやふるさと納税など、まちの魅力の発信や柏崎を応援する取組を強化し、シティセールスを推進します。

また、水球や海の大花火大会など、本市の認知度向上と魅力の形成につながる取組を強化します。

●地域コミュニティの維持・活性化

住みよい地域社会の実現や中山間地域における集落を維持するため、地域コミュニティなどにおける様々な課題に対して、若い世代を始めとする地域住民が連携し、自発的に取り組むことができるよう支援します。

また、地域おこし協力隊などの外部人材を活用した地域の主体的な取組を支援します。

(3) 子どもを産み育てやすいまちをつくる

ア 地域で子育てを支援する

●妊娠・出産・子育ての支援

安心して子どもを産み育てられるよう、妊娠、出産、子育ての場面において、切れ目のない支援を充実するなど、多様な子育てサービスを提供します。

また、地域における子育ての相談体制や情報提供、関係機関との連携により、地域全体で子育てを支援する仕組みづくりを進めます。

●出産や子育ての経済的負担の軽減

妊産婦や子どもに対する医療費助成など、出産や育児に対する経済的負担の軽減と、乳幼児や子どもの健全育成を支援します。

イ 若者のくらしを支援する

●ワーク・ライフ・バランスの促進

家庭生活と仕事の両立ができるよう、多様な勤務形態の導入、育児・介護休業の取得促進など、男女共に多様な働き方の選択を可能とするワーク・ライフ・バランスの取組を促進します。あわせて、事業所がワーク・ライフ・バランスを推進できるよう、その働きかけを強化します。

●若者の交流・結婚活動に対する支援

結婚を望む独身男女の希望をかなえ、結婚につながる出会いのきっかけづくりを進めるため、結婚に関する情報提供や各種セミナーの実施、イベントを通じた出会いの場の提供に取り組みます。

また、核家族化が進む状況において、子育て世代が交流できる場の充実を図ります。

(4) 地域の活力を担う人材をつくる

ア 愛着や誇りを育む人材をつくる

●愛着や誇りを持てる教育の推進

若者の地元定着を促進するために、学校における授業全般を通じて、ふるさと柏崎への愛着や誇りの醸成につながる教育を推進します。

さらに、地域と連携した生涯学習事業や公民館活動などを通じて、子どもから大人まで各世代が自分の住むまちに対し、愛着を深め、誇りを持てる人材を育成します。

●地域人材の育成

市民活動センターまちからを拠点として、これからの地域活動を担うリーダーや市民活動団体の育成を積極的に進めます。

イ 地域産業を担う人材をつくる

●ものづくり技術の継承・新たな技術に対応した人材育成

ものづくりを担う若手の人材育成と技術の高度化のため、ものづくりマイスターカレッジを継続するとともに、生産性の向上や高付加価値化に取り組む企業の人材育成を支援します。

●学生の確保・若者リーダーの育成

市内二大学との連携を強化し、将来的に柏崎への定着につながるよう、市内二大学の学生の確保を支援します。

また、自分やまちの将来を切り開いていけるよう、柏崎リーダー塾事業、柏崎・社長のたまご塾事業など、未来の柏崎に必要な人材の確保・育成を積極的に推進します。